2012.11.20(火)　月刊「磁津通信」（毎月20日発行　郵送450部　磁津楠宅配150部　電子版読者約100）No.32

磁津通信

磁津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磁津南町2839
野田之一さん気付

（山に入って作業をしている風景）

森は海の恋人

11月10日（土）天気は快晴。とても暖かい日でした。磁津漁協（今は四日市漁協）の幹部の皆さんと岐阜県の白川町に出かけました。

話のきっかけは伊十六さんに磁津の漁業の実態をお聞きしようと訪ねた時、「岐阜に木を植えに行くバスに乗らんか」と誘われたのがきっかけでした。組合長の旭さんが指導部に電話をしてくれ急遽参加することに。

政三さん、良男さん、本庄さん、裕樹くん、エイスケくんが一緒です。バスの中で、ガンサが2500円でなあ、マルカン、ヤンシュウ、…カワツがなあ、…となんだかよく分からない単語がでるのですが、何を話してみえるかは検討がつくのです。楽しく、岐阜県に向かいました。途中で桑名の赤須賀漁協の元気な若者たちと合流して。

なぜ、漁師が山に木を植えに？

そもそもこのバス旅行は大いに意味のある取り組みで、かの有名な漁民が山に木を植えるあの話です。伊十六さんはこの取り組みが始まった15年前から参加していて、始まった頃は山に着くと大漁旗がぎっしり風になびいていたと言います。今回のイベント名は「第15回森・川・海～清流がつなぐ未来の森造成運動」

実は三重県から30団体約250人がバス5台で三重県中から漁協・漁連・国交省・コープ・ボランティア・小学生が参加していたのです。受け入れは飛騨川漁協・美濃の里山女性グループ・白川町や森林組合。着くと町長が大変フレンドリーな挨拶。

さあ、山に入ります

私たちは森林整備作業のうちの植林作業にあてられました。（他には、下草刈りや去年植えて枯れた木の抜き取り、ドングリの実を集めて苗にする準備など）勇んで山道を登ります。（磁津の皆さんはちょっとご高齢なので、それに合わせて登りました。）ふと少し不安がよぎります。100人ぐらいが山に入りましたが、用意された苗は50本そこそこ。二人１組で１本を植えてくださいと言うのです。

ボクは地元のおじいさんに声をかけて組になりました。道具も苗も山肌に用意されていましたから、穴を掘って埋めるだけ。あっという間に終わります。天皇陛下の植樹祭じゃあるまいに。そんなんじゃ満足できな～～い！おじいさんともう１本見つけて植えてしまいました。（本当は100本ぐらい植えたかった！）

バーベキューで満腹

山から下りると地元の皆さんの心温まる準備で肉も野菜も山ほど用意してくださってあって、ビールを飲みながら、本当にたらふく焼き肉をいただいたのです。味噌汁もおいしいし、豚も鶏も美味でした。（なんと森林税で無料なんです！）

満腹になりごちそうさまをしたのですが、果たして私は何をしに白川町に来たのだろうかとふと思ったのです。木を植えるよりもバーベキューをよばれてる時間のがずっと長いし…。村長さんが帰りはようけ買い物してお金を落としていってくださいと挨拶してみえましたがあまり買い物もしませんでしたし…。

でも、後で分かったのですがこうして続けることで海の人と山の人に交流が進み、海がきれいになる動きが出、山村でも環境保全型の有機農業が復活し、収穫祭や道の駅でのフェア、イベントができ、山村も元気になっているのです。そんなことを再認識させて頂く楽しくも有意義な一日となりました。

（いっしょに行った良男さんとエイスケくん）

《 連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磁津環境学校情報室 》